

【瑞穂市】平成31年度全国学力・学習状況調査の結果

(1) 全国学力・学習状況調査について

【目的】 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析したことを、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、児童生徒に21世紀を生き抜くための「確かな学力」を身に付けさせることを目的に国が実施。

【実施日】 平成31年4月18日（木）

【調査対象】 小学校第6学年、中学校第3学年

【調査内容】 ①教科に関する調査 <小学校> 国語・算数 <中学校> 国語・数学・英語
※昨年度までは、主として「知識」に関するA問題と主として「活用」に関するB問題を分けて実施していたが、今年度より一体的に問う調査に変更
※中学校では、初めて英語の調査を実施（3年に一度）
②学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

(2) 瑞穂市全体の傾向

①教科に関する調査より

【小学校】

- ・国語は、全国平均をやや上回っている。
- ・算数は、全国平均を僅かに上回っているが、ほとんど差はない。

→ **両教科とも、全国平均並の学力は身に付いてきている。**

国語では、話の展開に合わせて質問内容を考えたり、目的に応じて質問を工夫したりする問題がよくできていた。しかし、目的や意図に応じて複数の情報を結び付け、条件にあわせて分析結果を書くなど、記述式の問題には課題がある。

算数でも、図形の面積や計算の仕方を解釈し、その求め方や式の性質を数学的な考え方をもとに説明するなど、問題に対する解決方法を記述で説明する問題に課題がある。

【中学校】

- ・国語、数学、英語の3教科全てで全国平均を大きく上回っている。

→ **どの教科も、全国平均以上の学力が身に付いてきている。基礎的な学力に加え、活用力も身に付きつつある。**

国語では、文章や話題の内容を捉えて考えを持ったり、適切な解答を求めたりする問題がよくできていた。しかし、封筒の書き方を理解して書く問題など、学校で学んだ知識を実際の生活の中で活用する機会が少ない問題については課題がある。

数学では、問題の意図を捉え、適切な解答を考えたり、選択したりする等、数学的な見方や考え方を活用する問題がよくできていた。しかし、小学校と同様に問題に対する解決方法や理由を記述で説明する問題には課題がある。

英語では、基礎的な語彙や文法、言語の働きなどの知識とともに、それらを基にあらすじや大切な部分を読み取る問題がよくできていた。しかし、問題の意図を捉え、自分の考えを整理し記述する問題や、基本的な表現を理解し正しく応答する問題には課題がある。



今年度も瑞穂市の傾向は、これまでと同様に、小学校は全国の平均正答率と同程度、中学校は全国の平均正答率を上回っている。また、小学校時の結果と3年後の中学校時の結果を比べると大きく伸びが見られ、小学校で身に付けた学力を基に中学校でその学力を大きく伸ばすことができている。

②学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査より

【小中学校】

- ・学校のきまりを守っている児童生徒が非常に多い（小中学校共に全体の9割以上）。
- ・「朝食」や「就寝時刻」、「起床時刻」など、学習を支える規則正しい生活習慣が身に付いている児童生徒が多く（小中学校共に全体の8割以上）、家庭と連携した生活習慣や学習習慣づくりが大切にされている。
- ・地域の行事に参加している児童生徒（小学校は全体の8割以上、中学校は全体の7割以上）は、全国に比べて非常に多い（平均値として、小学校で15ポイント以上、中学校で25ポイント以上高い）。地域の中で児童生徒たちが活躍し、地域の中で児童生徒たちを育てていこうとする瑞穂市のよさが表れている。
- ・日々の国語の授業で「目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしている」、算数の授業で、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」、英語の授業で「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われている」等、授業の内容に関わる質問において肯定的に回答する児童生徒が全国に比べて多く、指導改善により授業の充実が図られている。
- ・自分にはよいところがあると感じている児童生徒（小学校は全体の8割以上、中学校は全体の7割以上）や、学校の先生が自分のよいところを認めてくれていると感じている児童生徒（小学校は全体の9割以上、中学校は全体の8割以上）が全国に比べて多く、教師が児童生徒たちのよさを認め励ましたり、児童生徒たち同士で互いのよさを認め合ったりする活動が大切にされている。

（3）結果を踏まえて

- 小学校で身に付けた学力を中学校で更に伸ばすことができている。
- 各校において、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた指導改善が継続的に行われ、普段の授業の中で、学習規律の定着とともに、自分の考えをノートにまとめたり、仲間と伝え合ったりするなど言語活動の充実が図られていることが、確かな学力を育ていくための基盤となっている。
- 小中学校共に、家庭学習が充実している。家庭と協力した全校体制による取組や小中が連携した取組により、家庭学習の習慣が身に付いてきている児童生徒が多い。
- 小中学校共に、規範意識や基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒が多い。
- 小中学校共に、日頃から教師が子供たちのよさを認め、励ます指導や、子供たち同士による互いのよさを認め合う活動を大切にする指導が継続的に行われてきたことで、自己有用感や自己肯定感を感じられる児童生徒が増えてきている。
- 全国と比べ、小中学校共に、地域の行事やボランティア活動に参加している児童生徒がたいへん多く、このことは瑞穂市の特色であり、誇りである。

<今後の指導について>

- ・今年度は、小中学校共に学力調査において、全教科が全国平均を上回り、特に中学校については、例年大きく上回っている。こうした結果は、普段の授業の充実や、地域、家庭と連携した教育が大切にされてきたからである。今後も、児童生徒のよさを認め、励ます指導を大切にするとともに、主体的に学びに向かう力や確かな学力を育むために、子供たち自身が教科の魅力や面白さ、学ぶことの楽しさや喜びを実感することができるように、教材研究や教科指導力の向上に力を入れ、日々の授業の充実につなげていく。
- ・目的や意図に応じて自分の考えを整理して記述する力を育ていくために、学年に応じて段階的、継続的に指導を進めていく。
- ・「読書のまちみずほ」を目指して、普段の児童生徒の読書量や読書習慣については各校で改善が図られているが、中学校においてはまだ全国に比べて数値が低い。今後も引き続き学校、家庭、地域が連携して読書の推進を図っていく。

